

平成28年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査(東京都教育委員会)結果の概要について

東京都教育委員会では、小学校5年生および中学校2年生を対象に、学力調査を実施しています。

目的

- ・子どもたち一人一人の学習状況の改善に役立てるため
- ・各学校における授業の改善に役立てるため
- ・区市町村における学力向上のための施策の充実に役立てるため

実施日

平成28年7月7日

結果の概要

●教科に関する調査結果

小・中学校ともに全実施教科において、都の平均正答率を上回っています。

「教科に関する調査」は「学習指導要領に関する内容」と「読み解く力に関する内容」の2つがあります。

・学習指導要領に関する内容

各教科を、4つの観点「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」別に調査しました。

小・中学校ともに、ほとんどの観点で都の平均正答率を上回っています。

・読み解く力に関する内容

各教科を、3つの観点「情報を正確に取り出す力」「比較・関連づけて読み取る力」「解決する力」別に調査しました。

小学校においては、ほとんどの観点において都の平均正答率と同じか、上回っています。

また、中学校においては、全実施教科の全ての観点において、都の平均正答率を上回っています。

●学習に関する意識調査

「学習に関する意識調査」では、各教科の内容の理解や学校以外の学習や生活、行動などについて大きく4項目の調査をしています。この調査によって子どもたちの学習態度や生活の態度と学力との関係を分析しています。

例えば「学校の決まりを守っているか」や「学校に行く前に朝食を食べるか」という質問に「守っている」「食べる」と回答した子どもたちの平均正答率は、「守っていない」「食べない」と回答した子どもたちの平均正答率よりも約13ポイントから26ポイント高くなっています。このことから子どもたちの基本的な生活習慣を定着させる必要があります。また、学校の決まりには、授業中の決まりの他に忘れ物、提出物に関する決まりも含まれます。学力の向上を図るためにも、決まりの意義を考えさせ、自ら守ろうとする態度を身に付けることが大切です。

●まとめ

学校は、次期学習指導要領の内容を踏まえつつ、基礎・基本の定着を図るとともに、課題の発見・解決に向けた「主体的・対話的で深い学び」を目指し、授業改善を図ります。

ご家庭においては、各学校から配布された個人票をご覧くださいとともに、東京都教育委員会が作成した「東京ベーシック・ドリル」の効果的な活用をはじめ、学力向上に向けた学校の取組へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

「東京ベーシック・ドリル」とは、小学校1年生から中学校1年生までの国語、算数・数学、小学校3・4年生の社会、理科、英語の基礎的な学習内容及び知識を身に付けるためのドリルです。使い方や解答、解説、練習シートなどが東京都教育委員会のホームページ上にあり、各家庭でもダウンロードができます。

教科に関する調査結果

	教科名	小平市	東京都
小学校	国語	74.5	74.3
	社会	74.8	72.6
	算数	63.5	62.9
中学校	理科	63.8	62.4
	国語	73.5	70.7
	社会	62.0	57.7
	数学	59.2	56.2
	理科	57.9	54.8
	英語	57.9	55.4

(注)表中の数値は平均正答率を表す。(単位:%)

平成28年度 小平市教育研究発表会

小平市教育研究発表会を2月1日(水)ルネこだいらで開催しました。

舞台発表

■こだいらの小・中連携教育

上水中学校区と花小金井南中学校区の特徴ある取組について発表を行いました。その後、小・中連携教育推進委員長から平成24年度から始まった小・中連携教育の5年間の成果と課題、そして来年度から新しくなる取組の内容について説明しました。

■特色ある教育活動

二小	道徳科を中心に自他を大切に授業づくりについて報告
九小	児童の「問い」を引き出し、児童同士がその考えを共有して解決する算数の授業実践を報告
十小	道徳科や人との関わりを大切に活動を通して自尊感情を育む指導の報告
三中	ICT機器を活用して能動的な学習効果を高める授業実践について報告

■小平市立小学校いじめ防止授業の取組(スライドショー)

十一小	十四小	鈴木小	いじめ防止授業の様子やいじめの未然防止などの取組についてスライドショーで上映し、道徳の時間や学級活動、児童会からの呼びかけによるいじめのない学校づくりの工夫を紹介
十二小	十五小	学園東小	
十三小	花小金井小	上宿小	

紙面発表

研究推進校(1年目)	六小、上宿小、一中	1年間の研究内容や成果と課題について
グループ研究	四中学校区(四中、四小、十小、十五小)	大学と連携した英語学習についてグループ研究した内容

研究を行った学校の成果を市内全校で共有し、小平市の教育のさらなる充実を目指します。(指導課)

第37回 こだいら市民駅伝大会

2月5日(日)、「第37回こだいら市民駅伝大会」が開催されました。

1区間3.1キロメートル、全4区間で4人の走者がたすきをつなぎました。

中学生男子・女子の部ともに10チームの参加があり、男子の部は花南とゆかいななかまたちAが、女子の部は小平六中陸上部Bが優勝しました。(文化スポーツ課)

第37回こだいら市民駅伝大会結果(上位)

中学生男子の部(参加10チーム)

順位	チーム名	タイム
1	花南とゆかいななかまたちA	47分45秒
2	小平一中 陸上競技部	48分37秒
3	小平六中 陸上部A	51分42秒

中学生女子の部(参加10チーム)

順位	チーム名	タイム
1	小平六中 陸上部B	53分48秒
2	小平一中 女子バスケットボール部	55分42秒
3	花南とゆかいななかまたちD	56分04秒

※チーム名は参加申込書の記載のとおりです。

子ども110番のいえをご存知ですか?

小平市では、警察署、青少年対策地区委員会、PTA等、事業所などと協力し、「子ども110番のいえ」を一般家庭やお店など千7百か所以上で開設しています。

▼どこでわかるの
一般家庭やお店の入口付近の目立つ場所に「子ども110番のいえ」のプレートが貼ってあります。

▼どんなときに利用するの
知らない人にしつこく話しかけられて不安を感じたとき
知らない人に追いかけられたとき
知らない自動車や自転車がつかってきたとき
痴漢や変質者に出会ったとき
そのほか、身に危険を感じたとき

▼どんな対応してくれるの
避難してきた子どもたちの安全が確認されるまで保護します
けがなどがなければ確認し、場合によっては110番、119番通報します
保護者に連絡します
※なお、協力者はボランティアですので不在の場合もあります。

▼協力をお願い
各地区の青少年対策地区委員会やPTA等が、協力者の拡大に取り組んでいます。依頼があったときは、ぜひご協力をお願いします。

▼保護者の皆さんへ
新年度を迎えるこの機会に、お子さんと一緒に通学路や遊び場を歩き、「子ども110番のいえ」がどこにあるのかを確認するとともに、危険を感じたら、「子ども110番のいえ」に助けを求めよう、説明をお願いします。



「子ども110番のいえ」プレート

(地域安全課)

体力アップコーナー



平熱が35度台の「低体温」の子どもの割合が増えていると言われています。「低体温」を解消するには、規則正しい生活が不可欠ですが、同じくらい大切なのが運動です。

■いつでもどこでも楽しく運動
小平市教育委員会では、現在、市立小・中学校や東京学芸大学と連携して、「楽しみながら運動プログラム」を開発しています。このプログラムでは、朝の時間、授業中、休み時間、家庭での時間に、子どもたちが進んで取り組みたい運動例や、その組み合わせ方を示します。各学校が、子どもの状況に合わせて柔軟にアレンジし、特色ある取組を進めるための指針となるものです。

■家庭では、例えば、壁に走り高跳びの日本記録や世界記録の高さにテープを貼り、その高さを目標にジャンプして競ってはいかがでしょうか。いつでも気軽にできるような工夫することが、継続して取り組める秘訣です。

■たくさん動いて生活リズムを

子どもたちは、日中、思い切り体を動かす場面があると、夕食をしっかりとる、早い時間に寝るなど、望ましい生活リズムのサイクルができ上がります。

■まずは日常生活の中から
厚生労働省は、「健康づくりのための身体活動指針」の中で、今より10分多く体を動かすことを勧めています。ジョギング、運動施設でのトレーニング、ストレッチなど、体力の維持や向上のための運動だけでなく、日常生活での身体活動も大切であることを示しています。例えば、重い荷物の入ったバッグを肩に掛せずに、手に持つことで握力が高まります。テニスボールを握りしめたり、グーパーを繰り返したりするだけでも効果があるそうです。

■目指すは子どもも大人も60分
子どもにとって親子でのふれ合いは、運動の大きなきっかけです。小平第十一小学校では、学校公開期間中に、保護者も一緒に参加できる体づくり運動の授業を行い、参加した親子は楽しく体を動かしました。実施後のアンケートによると、保護者の方が自身の体力にも関心をもったとのことでした。

まずは、プラス10分が目標です。歩幅を広くして買い物に行く、床を雑巾がける、家事の合間に筋トレやストレッチをするなど、無理なくできることから始めてみませんか。



(保護者も一緒に参加した体育の授業)